

2022 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4076500125		
法人名	有限会社ケアセンターすずらん		
事業所名	グループホームすずらん	ユニット名	1棟
所在地	福岡県朝倉市杷木穂坂89番地の1		
自己評価作成日	2022年9月20日	評価結果市町村 受理日	2022年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2022年10月3日	評価確定日	2022年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームの周囲は、田・畑・果樹園、山並みや筑後川の流れが広がり季節の移り変わりが自然と目に見えています。押し車や車椅子の方が多く、散歩の時に季節の花や野菜、稲やブドウ、柿の実りを見て楽しんで頂いています。地域のよど祭りやお大師様などの行事にも参加し地域の方々との交流を深めるとともに、毎月、何らかの行事か外出を計画しホームでの生活を楽しんで頂けるようにしていますが、この3年はコロナ禍のため多くの行事ができなくて残念です。また、御本人様の出来る事はできるだけ御自分でやって頂けるよう支援しています。さらに、自立支援・重度化防止に資する介護を進めるため、協力病院の作業療法士の指導のもと、機能訓練を行っています。主治医やご家族との連絡を密にして、身体機能のレベルが低下した利用者様でも、出来るだけホームの行事に参加していただいたり、個別にドライブ等の外出の機会を設けるとともに、希望する方にはターミナルケアを行うなど、利用者様やご家族が「良かった」と喜んで頂けるようなケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に職員一同で唱和し、理念を共有し楽しく過ごせるような介護を心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今は、コロナ感染症予防のため、地域との交流は難しいが、施設近所の散歩時に地域の方に会えば挨拶や軽い会話等を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症やグループホームの話をして、理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議を開き、地域の民生委員、老人会長、市職員、利用者様、ご家族様に参加して頂き、サービス提供の内容報告や情報交換、意見交換などを行うとともに参加者から提案要望を受けて、ホームの質の向上と理解につなげている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所主催の研修に参加して質問や助言を頂き、サービスの取り組みを相談している。運営推進会議に市担当職員に参加して頂き、助言等を頂きサービスの向上につなげている。生活保護担当者とも来訪時や電話での連絡を取り協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等適正化委員会を年5回開催し、その時にサービス担当者会議で勉強会を行っている。スピーチロックなどしないように日常的に職員同士で注意をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍のため外部研修はないが、ネット情報等から研修会用の資料を作りサービス担当者会議で勉強会を開催している。毎日のケアの中で、職員同士で注意し虐待防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に理解できていない職員がいるので、サービス担当者会議の時に資料を利用して勉強会を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に「利用契約書」「重要事項説明書」「重度化した場合における対応に係る指針」「個人情報保護に関する同意書」を説明し、不安に思うことや疑問に対する事等を回答して、理解し納得して頂けるように努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナにより面会ができたり、できなかったりがあり、ご家族様へは月1回の生活状況報告書、すずらん便り等で利用者様のご様子を伝えている。ご家族様からの要望や質問は解決に向けて真摯に対応している。コロナのため面会を禁止しているがZoomで面会を行っている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	サービス担当者会議で意見を出し合い、個人面談も行いながら意見要望を聞き改善につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活状況、体調、希望休に応じた勤務表を作成し、なるべく負担のないように心がけている。各種手当も支給しモチベーションの維持を図っている。産休・育休・介護休業の体制もできている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や性別、経験の有無による制限はしていない。各行事の担当者を決めて他スタッフと協力して行っている。資格取得に向けた支援をして実務者研修等に参加している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修の機会があれば参加し、研修報告書を回覧するとともに、機会あるごとに人権を尊重した介護に取り組むよう指導している。職員同士が業務中もご利用様の行動を把握し情報交換を行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上のため、初任者研修・実務者研修や興味のある研修に参加できるようにして旅費も支給している。研修に参加して、他職員に必要な研修報告書としてまとめて、いつでも閲覧できるように提供している。資格所得援助金制度を設け職員の資格所得を推進している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会、日本認知症グループホーム協会、朝倉介護保険事業者協議会や市町村、施設などの行事にも参加し、意見交換を行っている。疑問等がある時はその都度、管内の他のグループホームに連絡し意見等を聞いている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人様とケアマネジャー、ソーシャルワーカーと面談を行い必要としている支援を聞き入れるとともに心身の状態等を見極めて、施設の会議で情報を共有し話し合いを行い、安心して入所して頂けるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にアセスメントにそって情報を聞き取り、ご家族様の要望や不安を傾聴し、職員間で話し合っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご利用者様、医療等から得た情報、今まで受けていたサービス等の情報を元にアセスメントを行い、サービス担当者会議で職員が話し合って対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの生活歴を大切に得意なこと、洗濯物たたみや新聞折り等のできることを職員と一緒に考え実行提供している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、すずらんだより、生活状況報告書やケアプラン変更時などの時に状況報告をし、ご家族様に要望を聞き、職員同士でその情報を共有し対応している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中で昔の話、馴染みの人やご家族の事、これまで大切にしていた場所や人の関係が途切れないように職員と話しをしている。施設外へ車で行く時などでも話をしている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ボール遊び等で皆さんと一緒に参加できるようにしている。居室で過ごされる方はラジオを聴いていただいたり、声かけに行ったりしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族様とはできる限り関係を断ち切らないように心がけている。亡くなられた利用者様には葬式、初盆参りに行っており、年賀状のやり取りもしているご家族様もいる。施設外で会った時は挨拶を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話、表情行動などからご利用者様の思いの把握に努めている。職員同士で情報を共有し、サービス担当者会議でご利用者様の立場に立ったケアを支援できるように努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様から入所時アセスメント等で、今までの暮らしを聞きその方を知るように努める。入所後もサービス担当者会議等で意見を出し合って、馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調や心身状態の把握に努めて、ご本人様の出来る事、出来ない事を見極め、アセスメント等を参考に現状を把握するように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族の想いをなるべく反映した介護計画を計画作成担当者が作成し、サービス担当者会議でさらに職員の意見交換を行い反映している。毎月、利用者様一人ひとりの担当者がケアプラン実行表でチェックをし毎月評価している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、ケアプラン実行表を記入する事で気付いた事をその日の内や会議時に情報共有し、申し送り時に伝えたりケアプランの見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の病院受診は家族に代わって施設が行っている。生活用品など足りない物などがあれば担当職員や施設で準備している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、施設行事での子供会や地域の方、老人会の招待は難しい。訪問散髪の利用ができるように支援している。外へ散歩に行き果物が実ると現地で食べていただいたりしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の希望を聞き、定期的に健康診断に行ったり、体調が悪い時などはかかりつけ医の受診をして、家族と相談しながらその都度対応している。往診できない医療機関へは職員が利用者様を連れて行き受診している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調・状態の変化などがあればその都度、看護師に報告し、適切な処置を受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在はお見舞いや面会は中止のため、電話やリモートにて状態を把握している。退院時は病院からの添書の情報を職員同士で共有している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて主治医を交えた詳しい説明相談を行い、ご本人様やご家族の意向を聞いた上で、出来る限り対応できるよう職員全員で情報を共有している。ターミナル同意書や緊急連絡先の記入をいただいている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し目に付く所に置いている。分からないことがあればその都度、看護師や主治医に聞いたりして更新を行っている。利用者様の状態に応じた対応ができるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や水害等の避難訓練を行い、訓練後には反省点・改善点を出して次回の訓練につなげている。非常食等はキャリーバッグに入れ、職員は場所の把握をし定期的に確認している。停電対策として発電機を準備している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

38	(17)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者様一人ひとりの性格や生活歴を把握し、利用者様の誇りやプライバシーを損なわないように心がけている。沢山の会話をして信頼関係づくりをしている。</p>		
39		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>職員のペースにならないように気を付けている。利用者様の表情や言葉で自己決定ができるように声かけを工夫している。</p>		
40		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員のペースにならないように心がけている。時間がある時はゆっくりと利用者様と会話し笑顔を引き出せるようにしている。</p>		
41		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>離床時に必ず身だしなみを整えている。季節に応じた服装を着ていただくようにしている。定期的に美容師が施設に来ていただき散髪をして頂いている。</p>		
42	(18)	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>施設の畑から旬の野菜を収穫したり、旬の果物を取り入れている。毎日、担当職員が献立を考え盛り付けを工夫している。今日は何を食べたいかなどを利用者様に聞いたりしている。</p>		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりに合った食事形態にし、季節の野菜を取り入れバランスの取れた食事を作っている。お箸やスプーンもその方に合った補助具を用いる事もある。食事量・水分量をチェックし把握している。経口栄養剤を飲んでいただいている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方は声かけしてご自身で行っている。できない方には口腔ウエットティッシュや口腔ケアスポンジを使用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間排泄を記録している。居室にポータブルトイレを使用している利用者様もいるため近付いて見守りをしている。トイレ誘導の際、さりげない見守り声かけをしている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、野菜中心の食事を食べていただいている。朝食にはバナナ・牛乳等を使用し、水分も沢山摂取をして頂いている。体を動かすように、毎日ラジオ体操、棟内散歩等を促している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴を行っている。便汚染や失禁時などは臨機応変に対応している。また、季節によってシャワー湯やゆず湯浴も行っている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の意見や状態を尊重し、居室ベッドにて休んでいただく。褥瘡ができないように時間を設け見守り、体交を行っている。眠れない時はソファにて過ごされることもある。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を職員が目を通せるように注意事項などで申し送り周知徹底している。誤薬がおきないように、三度確認している。服薬が難しい方にはトロミに混ぜたりして服用している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりに応じたお手伝いをして頂いている。体調等に応じてテラスに出たり外の散歩を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナにより外出できていないが、近くにミカン狩りや柿狩り、芋掘りに参加している。周辺を散歩して花を見ていただいたり、車に乗ってアジサイやひまわり見学等を楽しんだ。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難のため、必要物品は施設で立て替えたり、電話で御家族と相談して購入している。利用者様のお金管理はご家族が行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの絵ハガキ等はご本人様に見せて読んでさしあげたり、居室に飾らせて頂いている。電話で話ができる方は電話でお話して頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に写真などを掲示している。暑さ対策のため、居室の窓の外にスダレを、テラスのタキロン屋根上にはヨシズを設置している。外から浴室の中が見えないように、窓の外に遮光カーテンを設置している。季節に応じてエアコンを使用し居心地の良い快適な空間の確保に努めている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にはソファを設置し、テーブルには利用者様それぞれ決まった所に座って頂いている。ソファには好きに座って頂き職員も一緒に座って談話したりして過ごされる。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
56	(23)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には家族の写真やご本人様の写真等を飾ったりしている。ご家族様からの手紙等も飾ったりしている。窓の外には季節の花や野菜を植え見られるようにしている。</p>		
57		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室のベッドは利用者様の状態に合わせた高さ等を調整して使用していただいている。転倒防止のため、廊下やトイレには手すりを設置し、居室にはすべり止めマット、センサーマットや足元センサーを使用している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				